



ぐんぐん すくすく！ 相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5

電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211

E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

7月は青少年の非行・被害防止全国強調月間です。

最重要課題『インターネット利用におけるこどもの性被害等の防止』

＜乳幼児・低学年児童のいるご家庭に＞

こどもの写真や動画 の投稿はここに注意！

こどもたちの成長はあっという間。我が子の可愛い姿や表情は、写真や動画に残しておきたいし、見てもらいたいと思っても、安全のための注意が不可欠です。

SNSでの投稿は事前に複数人でチェック！

お風呂の写真、水着、はだかに近い写真は、SNSなどのネットには上げずに、家族や親戚など、信頼できる近しい人だけの大切な思い出として扱しましょう。

※SNSにアップする場合は、顔がわからないようにするなど加工しましょう！

※保育園・幼稚園・学校のウェブサイトでも気を付けて！

成長記録としてSNSに投稿した写真や動画が、わいせつ目的などの望まないかたちで知らない人に悪用されてしまうケースがあります。

**リスクを知って、SNSでの
楽しみ方を考えましょう！**

＜特に、小学校高学年・中高生のいるご家庭に＞

児童ポルノ被害の4割近くは 自分で提供した写真 ～自画撮り被害にご注意を！～

SNSで趣味の話が盛り上がり仲良くなった同年代の女の子。スタイルの話題になり下着姿の写真を送りあったら、急に友達の態度が変わって・・・。本当は年上の男性だったのです。実名入りで下着姿の写真をばらまかれなくては、裸の写真を送れ!と脅迫されてしまいました。

裸の自画撮りの画像を撮って送信するように要求してくる人を信用しない！

18歳未満の裸の撮影は、児童ポルノ製造罪にあたります。違法な要求には応じないように、お子さんに伝えましょう。

さらに、相手が16歳未満の場合、要求するだけでも法律違反となります。(被害者が13歳以上16未満である場合には、その人より5歳以上の人が行ったとき)

**自画撮りを要求されたら、すぐ相談！
最寄りの警察や相談窓口の利用も！**

◆相生市内小中学校でも「ケータイ・スマホ教室」開催中です。

本年度も市内小学5、6年生(446人)と中学3年生(217人)を対象に、6月21・24日、7月5・12日の計4日間で全10回の『ケータイ・スマホ教室』を実施しています。

使用している資料は、「KDDIスマホ・ケータイ安全教室」の講座動画です。

指導していただいているのは、兵庫県立大ソーシャルメディア研究会の大学生のお姉さんと警察(相生警察生活安全係・姫路南少年サポートセンター)の刑事さんです。



6/21 中央小

6/21 双葉小



6/24 矢野小

6/24 若狭野小



※裏面で、そこで使用した動画教材の簡単な解説を紹介しています。

「ケータイ・スマホ教室」の動画教材の紹介

「こんなはずじゃ」



気軽に投稿した動画が拡散し、炎上することがあります。大きな問題に発展した場合は、犯罪になる可能性もあります。安易な投稿の怖さと将来への影響について考えます。



トラブルを防ぐポイント

- ・安易に撮影、投稿しない
- ・立ち止まって考える

自分の行動をよく考えよう

「次々やっちゃう」



インターネットやSNSは、いつの間にか日常生活や健康に支障をきたすほどのめり込んでしまうことがあります。ネットへの依存について説明し、ルールなどで利用をコントロールする大切さをお伝えします。



トラブルをふせぐポイント

自分で考え、コントロール

フィルタリングや機器自体の機能を活用

「信じていたのに」



インターネット上で仲良くなった人は本当にいい人でしょうか？友達でしょうか？インターネット上で知り合った人を信用してしまうことの怖さ、会いに行くことの危険性を説明します。



トラブルをふせぐポイント

- ・簡単に信用しない
- ・悪い人だったらどうなる？

気軽に会いに行かない

※この動画教材はYouTube（「KDDI スマホ・ケータイ安全教室」で検索）で見ることができるので、ご家族で振り返りにご活用ください。

東井義雄 いのちの言葉〈7月〉 ～『東井義雄一日一言』（致知出版社）より～

楽しくなるような言葉を

教室の黒板に書かれている言葉、小言ばかりでなく子どもが朝教室に入ってきたら、いっぺんに楽しくなるような言葉もほしい。こどもが学校に来るのがたのしくてしょうがないというような言葉もほしい。

自分を見えるようにする

書くということとは、自分を客観視することである。したがって、自分を、自分にも見えるようにしていく事である。

書くことによって伸びる

書かせると時間がかかる。口で喋れば、すぐにパツとしゃべってしまえることでも、それを書くとなると、どうしても時間がかかる。書かせたら、読んでやらなければならぬ。読むだけでなく問題点を指摘してやらねばならない。

にもかかわらず、私が、各教科に亘って書かせてきたのは、子どもの力が確実に伸びてくるその事実の魅力によるものだ。単に力がつくだけなく、子どもの人間そのものが、ぐんぐんしっかりしてくるものだから、やはり書かせずにおれない。

聞くところから

「聞く」は話すよりも消極的なことのように考えられがちだが、これくらい積極的な、全身、全霊をかけなければできないことはない。

ことば

ことばを心の中であたためてから使うことに努めている、あなたことばの角をとって、まるくして使おうと努力しているあなた

耳を育てる

子どもが「はてな？」「なぜかな？」「こうかもしれないぞ」「いや、まてよ、これはちよつとおかしいぞ」という顔をするとき、心と体を「耳」にしようとしたときと考える。その心と、耳の穴を広げる仕事、それこそが学習を育てる仕事なんだと考える。

「問い」を育てること、それが「耳」を育てることだと考える。

【とおい・よしお】「いのちの教育」の探求に尽くした日本の教育者。兵庫県豊岡市但東町佐々木に生まれる。小学校教師として村を育てる教育を实践。ペスタロッツ賞、平和文化賞、小砂丘忠義賞、文部省教育功労賞受賞。